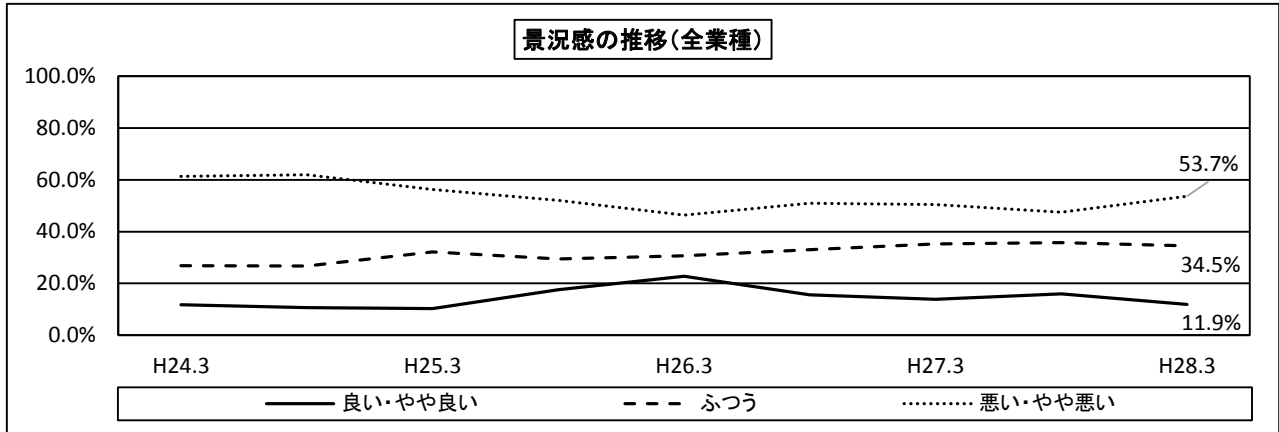


【 概況 】

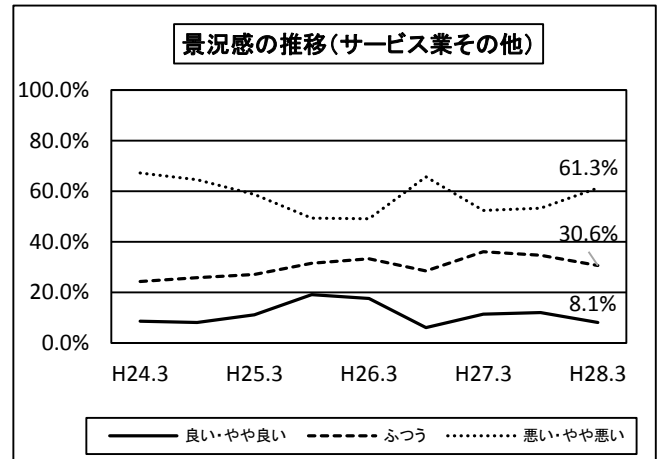
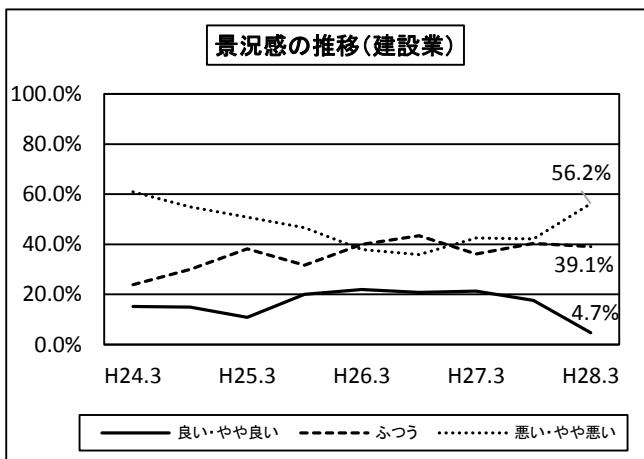
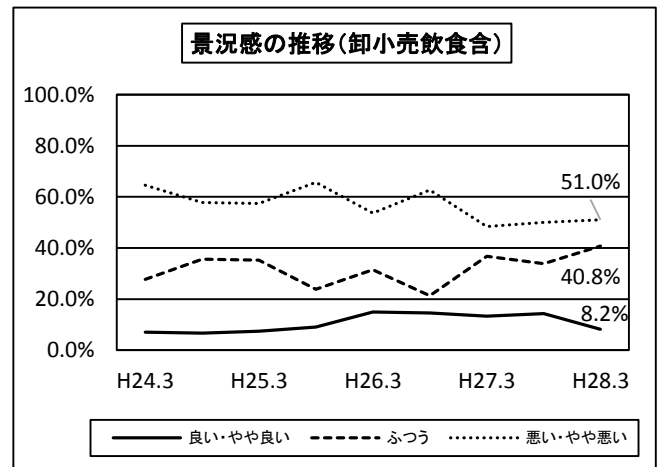
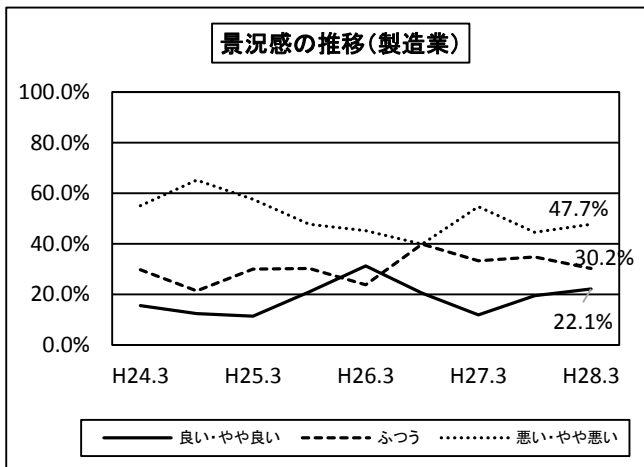
— 景況感 悪化傾向。特に『建設業』は大幅に悪化 —

《 景況感 》

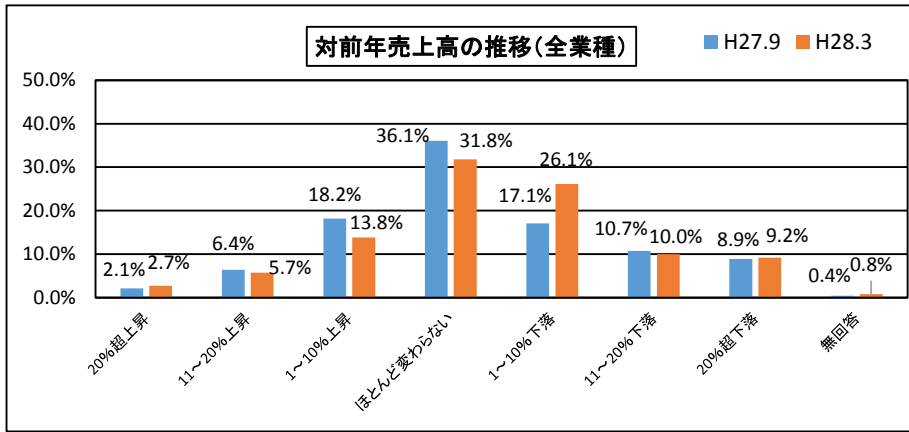


全業種の景況感では、「良い・やや良い」の数値は11.9%（前回16.0%）で4.1ポイント減少した。また、「悪い・やや悪い」の数値については53.7%（前回47.5%）と6.2ポイント増加し、前回調査から悪化した。

業種別にみると、『製造業』では「良い・やや良い」が2.5ポイント増加しているが、事業所ごとに景況感が分かれる結果となり、『建設業』は大幅に悪化した。

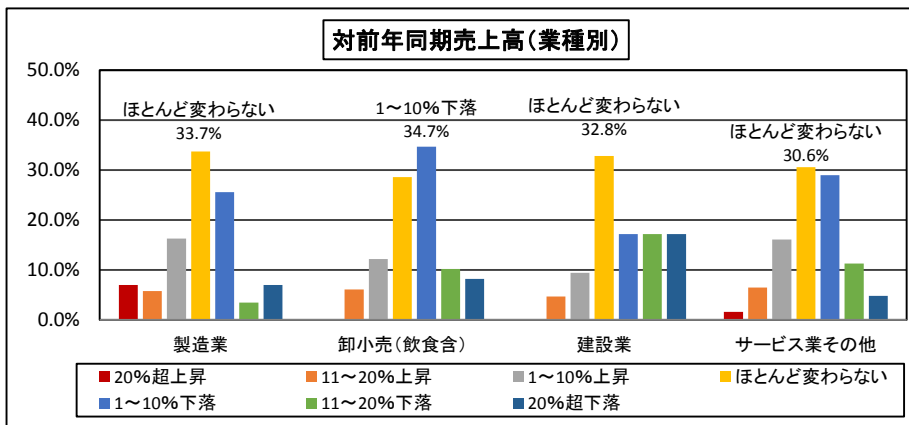


《売上高》



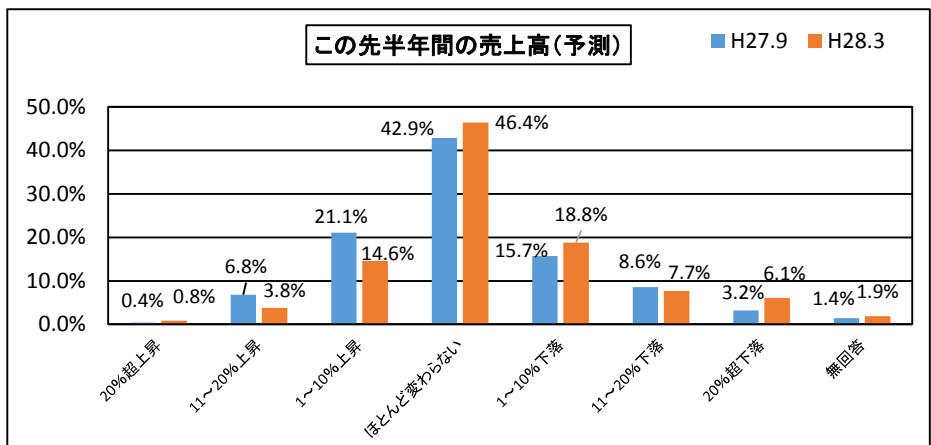
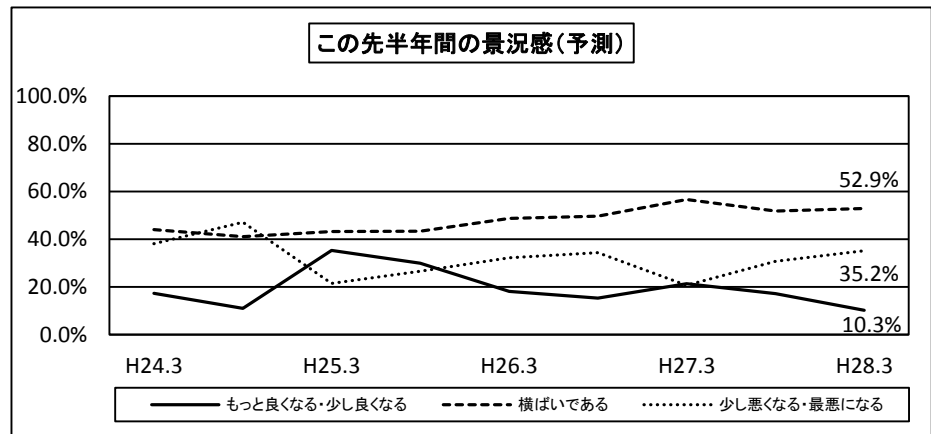
売上高では、対前年同期で“上昇”は4.5ポイント減少した。(今回22.2%、前回26.7%)また、“下落”の数值は8.6ポイント増加しており(今回45.3%、前回36.7%)悪化を示した。

業種別では、『卸小売(飲食含)』と『建設業』の過半数の事業所において“下落”を示す結果となった。

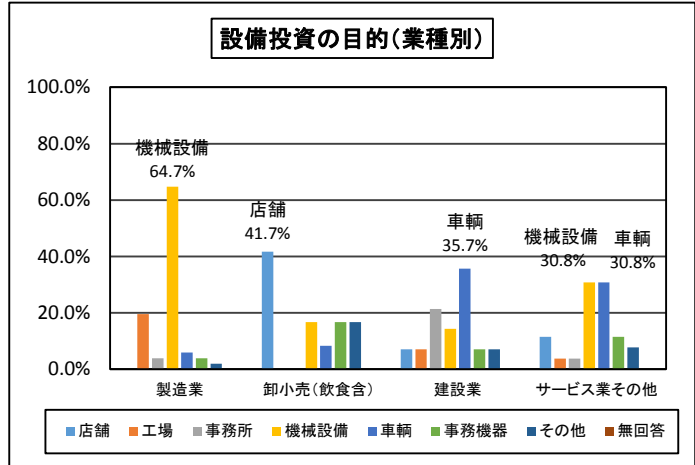
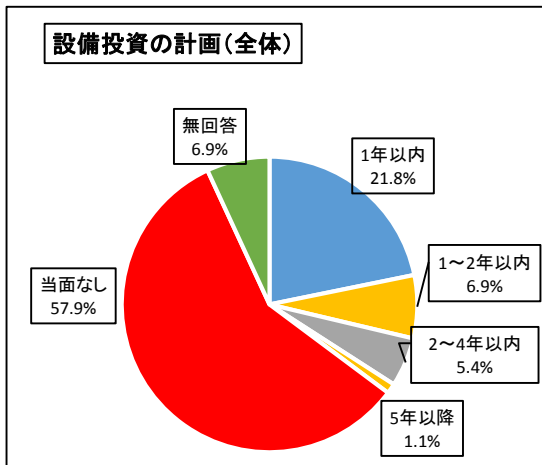


《景気・売上高の見通し》

この先半年間における景況感の予測では、「もっと良くなる・少し良くなる」については、10.3%で6.9ポイント減少(前回17.2%)し、「少し悪くなる・最悪になる」については、35.2%で4.5ポイント増加(前回30.7%)し、前回調査にから更に先行きに懸念を残す結果となった。



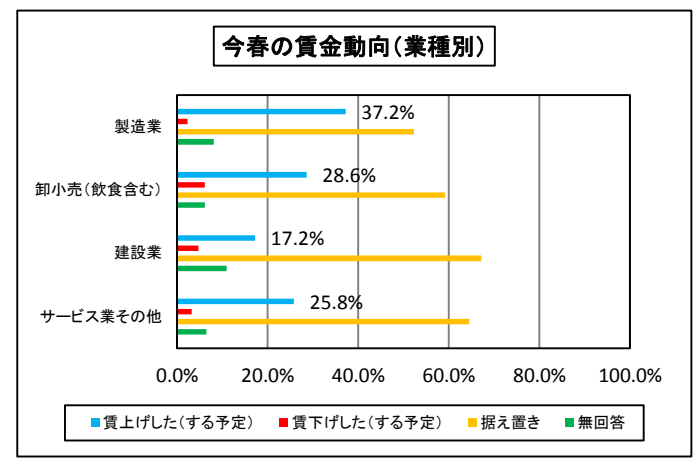
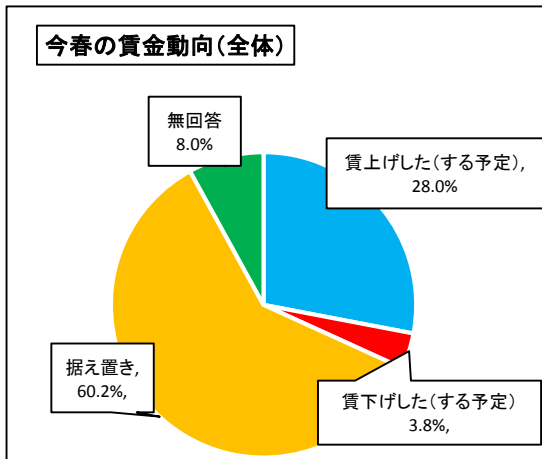
《設備投資》



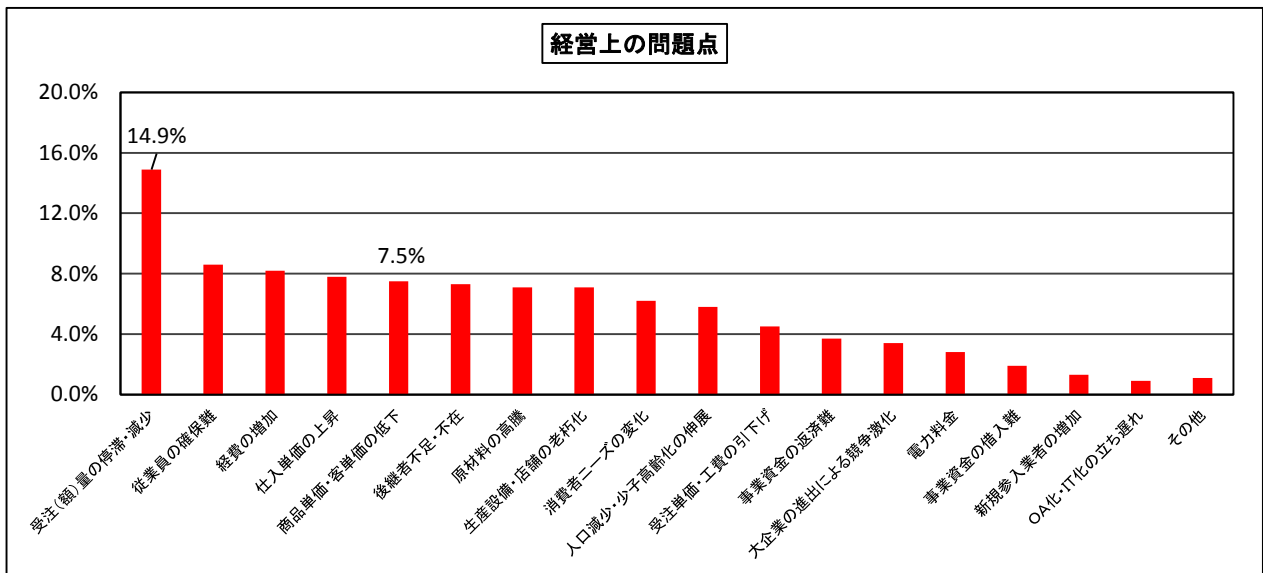
設備投資においては、35.2%の事業所で今後設備投資を計画しており、その目的については、業種別で分かれる結果となった。

《賃金動向》

賃金動向については、「賃上げした(する予定)」の事業所の割合は28.0%となり、業種別では、『製造業』が37.2%と一番多い結果となった。



《経営上の問題点》



経営上の問題点については、『製造業』『建設業』『サービス業その他』の3業種で指摘の多かった「受注（額）量の停滞・減少」が14.9%で第1位となった。また、『卸小売（飲食含）』で指摘が多かった「商品単価・客単価の低下」は7.5%であった。

【調査対象業種】

製造業	繊維工業、金属工業、食品工業、印刷業、窯業、プラスチック工業、電気機器製造業
卸・小売業 (飲食店含む)	卸売業、食料品販売、陶器販売、文具販売、カメラ用品販売、衣料品販売、自動車・自転車販売、荒物・雑貨販売、スポーツ用品販売、花・植木販売、その他の小売、飲食業
建設業	建築・土木、鉄工、製材、木工、電気工事、左官、管・サッシ工事、塗装業、屋根工事、装飾
サービス業その他	理・美容、運送業、写真業、ホテル・旅館、クリーニング、金融・保険、税理士・社労士等、不動産業、教室・塾・練習場など

【調査対象業種】

今回の調査集計の業種別サンプルは次の通り

業 種	サンプル数
製造業	86
卸・小売業（飲食店含む）	49
建設業	64
サービス業その他	62
合 計	261